

音楽オリンピックー音楽 × 国際協力

WE ARE THE WORLD

カンボジアの子供たちの、悲惨な過去の傷と平和な未来への願いは、この歌に込められて私の元へ届いた。彼らの、真剣に歌う顔や力強くもどこかかすれている声を私は今でも思い出すことができる。

彼らの心の声は、言語、宗教、人種という大きな壁を超えて音楽によって私の心に届けられた。

音楽は人の心と心をつなぐツールだ。カンボジアの子供たちの心と私の心は、音楽によってつながれた。そんな音楽を使った国際協力を行えば、国境を越えた人と人のつながりが生まれ、世界平和や格差のない世界が実現される。私は、そんな音楽を使った「音楽オリンピック」というイベントを開きたい。音楽オリンピックは、4年に1回、様々な楽器のソロ、民族楽器、バンドというようなあらゆる音楽分野においての世界一を一カ所で一気に決める、オリンピックの音楽バージョンだ。

音楽やスポーツなどの「芸術」と言われる分野には、国家間の壁を壊す力がある。そしてそんな芸術の大会では、国境を越えた絆がより顕著に現れる。例えば、サッカーの国際大会では、国内紛争が起きている国や、国境問題などで対抗している国が相手であっても、ある決まったルールのもとで平等に、お互いのチームが思いやりを持ってプレーをする。つまり、そのような国際大会では、先進国や発展途上国であるという区別をすることなく、すべての国がお互いを尊重しながら競いあうことができるのだ。スポーツのオリンピックは古代ギリシャに始まり、戦前から多くの国からの参加者を募り、たくさんの人に楽しまれてきた。開催都市は一丸となって競技場を整備したり、選手村を整備したりする。国民は、自国の代表を応援するだけでなく世界のレベルの高い戦いを見たり、普段は耳にしないような国からの参加者に注目したりもする。しかし、スポーツは楽しめる人が限られている。そこでこのような素晴らしい大会を音楽でも行えば、スポーツを見ることに興味がない人、目の見えない人、老若男女が楽しめるのではないか。

さらにこのオリンピックで行いたいのが、各国の民族楽器を使った大会だ。世界全国から民族楽器を集めて、どの民族楽器による演奏が素晴らしいかを競い合う。もちろん優勝を目指して出場者が争う事も面白いが、それ以上に世界全国の民族楽器を見る事が出来る唯一の機会であるだろう。そしてその民族楽器を見比べる事でお互いの共通点を見つけたり、違いを見つけたりする事ができる。

そして、そのような民族楽器を含む様々な分野でそれぞれ入賞者を決め、大会の最後にその入賞者らによる合同演奏を行いたい。現在のオーケストラでは、バイオリンなど決まった楽器で近代に作られた曲ばかりを演奏する。近代は西洋の力が強くその名残が音楽には大きく残っているのだろう。しかしそれでは、いつまでも西洋の力が強く、その植民地とされていた国々の力は弱いままだ。そこで、オーケストラに、民族楽器を入れてみてはどうだろうか。現代の優秀な曲から民族楽器の音も取り入れた譜を作り、それを演奏すれば、今までの近代の名残があるオーケストラから脱却し、世界中の音楽を一つの音楽にすることができる。

差別。偏見。紛争。

これらは世界中の人々の悲しみを生む。音楽はこれらを取り除く力がある。目の見えない人でも、耳が聞こえない人でも、歌に込められた意味は理解することができる。貧困地域に生まれた人でも、音楽を楽しむのにお金は必要ない。紛争地域で苦しむ人たちは音楽でその苦しみを忘れることができる。

世界中のどんな境遇の人にも楽しめることができる音楽ならば、人々の間に「絆」を生み、それは共生を実現させる。さらに、文化交流を活性化し、新しい音楽の形を作ることで、経済効果を生むことができる。それは、一時的な効果でなく、長期的に永遠の効果となって、国際協力が一歩進む糧となるだろう。(1589文字)